



前回の特集「家庭教育を考える」に対して市民31人から61件の意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) 子どもをより良く育てるために、親としてどのようなことに努めたいと思いますか？

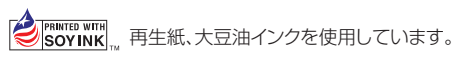
- 自分の子どもというだけでなく、「社会の一員」として、社会の役に立つ、社会に受け入れられる存在に育てたい。(雀の宮1丁目 30代)
- 少しの時間、親子が向き合って勉強できるようにし、勉強だけでなく、テレビなどを消して、おしゃべりを心掛ける。(宿郷5丁目 30代)
- 心を抱きしめる教育と心の込められた言葉掛けが、今の親に不足していると思う。(若松原3丁目 50代)
- 働く親の背中を見せていれば口をつぐんでも子どもは分からない。親は、子どもにもう一方の親の苦労や姿を話して聞かせるべき。(旭2丁目 40代)
- 3度の食事を家族一緒に食べるといったことから始めてはどうか。(清原台6丁目 60代)

(2) 家庭での子どもの教育を支えるために、地域・企業・学校はどのような支援をしたらよいと思いますか？また、どのような協力ができると思いますか？

- 企業にワークライフバランスを求めたい。夫は子どもの顔を見る間もなく、妻は仕事と家事で時間に追われ子どもと向き合う時間がない。(雀の宮1丁目 30代)
- 地区の子どもが減少して30年前に中止したお祭りを、3年前に地域全体で再開した。地域も子どもも和らいできている気がする。(下桑島町 50代)
- 自営業なので、下校中の子どもたちに必ず「お帰り」と声を掛け、手を振っている。子どもたちは何か話したいことがあると入口に立ち、うれしそうに話して帰っていく。(元今泉6丁目 60代)
- 何と言っても連携が必要。家庭や地域で機会あるごとに教育について話し合うこと、学校は学校の現状などをもっと地域に発信すること。(五代2丁目 60代)
- 子育てが一段落した50代を生かして、母親が何気ない悩みなどを話すことができる「となりのおばさん」を作ればいい。家庭の子育ては、母親の心にゆとりができればスムーズにいく。(50代)
- 子どもが外で友達と安心して遊べる安全な場所を提供する。(清原台6丁目 60代)

広報うつのみや特集号は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回発行します。また、毎月1日発行の通常号の次回(3月号)は、2月29日配布です。

広報うつのみや 特集号はホームページでも見られます。
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



前回の特集「家庭教育を考える」の概要



社会の変化に対応した家庭教育支援へ
 家庭教育とは、親が子どもに対して行う教育のことで、毎日の家庭生活そのものであるとともに、人格形成の基礎を培うすべての教育の出発点である。

家庭の教育力が低下していると言われているが、核家族化や都市化、少子化などを背景に、子育ての考え方や悩みなども多様化し、親の多くが子育てに不安を感じている状況を理解し、社会全体が家庭の子育てや教育を応援し、支えていくことが求められている。

地域、企業、行政などみんなで家庭教育を支える社会

市では、身近で気軽に子育てについて話したり、ほかの親と交流したりすることができる「子どもの家」の設置や企業での保護者向け講座の開設など、地域や企業と連携・協力して、子育てを応援し、家庭教育の充実を図るための取り組みを行っている。このほか、「親学情報紙」の発行、保護者などが集まる機会を捉えた「親学出前講座」や「家庭教育講座」の開設など、保護者による「親学」(健やかに子どもを育てるため、親としての役割や子育ての責務、その楽しさについて学ぶこと)を推進している。

子どもが健やかに成長するために、親は時間と手間をかけた家庭教育を行い、学校・地域・職場はそれぞれができる支援を、行政はこれらを支える役割を担い、みんなで家庭教育を支える社会にしていきたい。



料金受取人払

宇都宮中央局
承認
645

差出有効期間
平成21年8月
11日まで
【切手不要】

郵便はがき

3 2 0 8 7 4 0



(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。